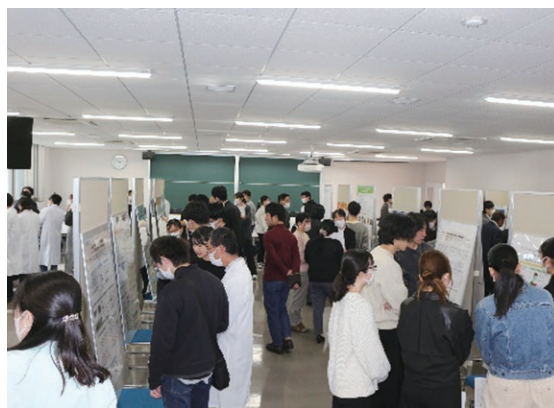


山陽小野田市立山口東京理科大学 地域連携・社会貢献レポート

2023 年 4 月～2024 年 3 月



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学

学長 武田 健

平素から、本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。地域連携・社会貢献レポートをお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

山陽小野田市立山口東京理科大学は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神のもと、地方都市における落ち着いた教育環境のなかで、専門的知識に基づいた薬後系分野における学術活動を通じて教育・研究を推進するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。また、教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実を基本理念の一つに掲げています。

本学はこの理念のもと地域連携・社会貢献に取り組み、教育・研究の成果を社会連携活動として積極的に地域に還元するよう努めています。本レポートは2023年度の地域連携・社会貢献の取り組みの一部を紹介するものです。

本レポートに掲載されている活動内容は、本学の教職員の多大なご尽力により、また、学内外の関係者の皆様の熱心なご協力により大変充実したものになっていると自負しています。

「人生100年時代」において、人々が歳を重ねながら活力をもって時代を生き抜くためには、本学のこれまでの地域連携・社会貢献活動に加え、生涯継続して学び続けることのできる機会の提供がますます必要になっています。社会のニーズに柔軟に対応して、様々な形式のリカレント教育(社会人向け大学院、先進的な知識・技能を学ぶことのできる履修プログラム、一般教養等に関する公開講座等)を今後より一層積極的に実施していく必要があると考えています。

どうか市民・県民の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

山陽小野田市立山口東京理科大学の地域連携・社会貢献の取り組み

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2022年4月1日から2028年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」(第2期)に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2023年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介します。

＜地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画＞

1. 「知（地）の拠点」の役割を発揮するための組織体制等の整備・充実

(1) 地域社会との連携を積極的に進め、地域や行政のニーズを把握し、それらが抱える課題の解決に資するため、大学の持つ知的・人的資源を効果的に活用し、シンクタンク機能を発揮することにより、地域社会の持続的発展に貢献できる「知（地）の拠点」としての役割を果たします。

(2) 地域貢献活動の積極的な展開

地域貢献活動に対する高い意欲と意識を持ち、産学官連携や地域社会との交流を積極的に推進します。また、公開講座の開催や新たな社会人教育プログラムの提供など、多数の者が大学の教育と研究活動に触れ学ぶことができる山口東京理科大学ならではの生涯学習プログラムを推進することで、学生だけでなく市民や社会人が集う「地域に開かれた大学」を目指します。

2. 企業・医療機関・他の高等教育機関等との連携に関する目標

企業や医療機関、他の高等教育機関等との連携や地域社会との交流を積極的に推進することで、共同研究などによるイノベーションの創出や地域経済の発展に寄与します。

3. 教育機関との連携に関する目標

初等中等教育との連携、高大連携、他の高等教育機関との連携を積極的に展開し、学生及び教職員の幅広い分野での活動を促進することにより、大学外の多様な知的・人的資源の活用及びネットワークの充実に図り、地域教育の活性化に貢献します。

4. 学生の活動の場の創出に関する目標

(1) 学生の活動の場の創出に関する目標

学生が早い段階から教育研究及び地域貢献に対する明確な目的意識を持って活動を行い、産学官及び地域社会との連携・交流の促進を図るとともに市のまちづくり施策にも積極的に参画できる機会の創出に取り組みます。

(2) 学生生活充実のための支援の充実

学生寮の整備や交通手段等をサポートし、学生の市内での活動の場を拡張、充実した学生生活を送ることができる体制・制度の構築に努めます。

目 次

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって	1
本学の地域連携・社会貢献の取り組み	2
1. 市民への貢献	
(1) 薬草による健康づくり講座	5
(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」	5
(3) サイエンス・カフェ	6
(4) 令和5年度大学開放授業	6
(5) 令和5年度研究成果発表会	7
2. 高等学校との連携	
(1) 「理系教員のためのリカレント・セミナー」を開催	8
(2) 出前講義	9
3. 産業界との連携	
(1) 山口県 GMP カレッジワークショップを開催	10
(2) 数理情報科学科トークセッション	11
(3) 大学見本市 2023 ～イノベーション・ジャパン	11
(4) 商工会議所会報による研究紹介	12
4. 地域団体との連携	
(1) 「薬剤師向けオンデマンド・web 研修講座」を実施	13
(2) 大学開放デーを開催	14
(3) 特別講演会を開催	15
(4) 第35回夏休みジュニア科学教室を開催	16
5. 学生による地域貢献	
(1) 「フレイル予防」啓発ポスターを制作	17
(2) 地域ボランティア活性化班による「おくすり教室」	17
6. 地域の知を教育に生かす取り組み	
(1) 地域課題解決研究事業	18
(2) 地域卒業研究	19
(3) リーダーシップ論	20
(4) 地域技術学	20
(5) 地域産業論	21
(6) 地域社会学	21

(7) 市内県内企業見学	22
(8) 薬学教育のための市民模擬患者	24
(9) 行政薬剤師による講義	24
(10) 市内企業インターンシップ	24
(11) 県内企業インターンシップ	24
(12) 学術と地域文化	25
(13) 大学リーグやまぐち	26
 7. 地方公共団体との連携	
(1) 山陽小野田市長による特別講義	27
(2) 市立図書館との相互利用	28
(3) 市立中央図書館「図書館フェスティバル」	28
(4) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用	29
(5) 住まいる奨励金	30
(6) スマイルチケットを本学学生全員に配布	30
(7) 各種委員の応嘱（行政関係）	31
 8. 消防署との連携	
(1) 学生消防団員	33
(2) 防災訓練	33
(3) 普通救命講習	34
 9. その他の取り組み	
(1) 船鉄バスのフリーパスについて	34
(2) 研究機器の開放	34
 10. 地域からの入学	
(1) 地域推薦	35
(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）	35
 11. 地域への人材輩出	36
 12. 地域への経済波及効果	36
 13. 市内人口の約 32 人に 1 人が理科大生	36

1. 市民への貢献

(1) 薬草による健康づくり講座

開催日：2023年5月20日（土）～2024年2月17日（土）

主 催：総合型地域スポーツクラブ「すげえちゃ・高泊」

後 援：（公財）山口県体育協会・生涯スポーツ推進センター、山陽小野田市

場 所：江汐公園、竜王山、山陽小野田市民館、山口東京理科大学

担 当：薬学部薬学科 嶋本顕 教授、田中宏幸 教授、今堀大輔 助教
共通教育センター 宇野直士 講師

内 容：本学は共催として参画し、薬用植物をキーワードに広く市民の方々を対象に薬草講座を開催しています。2023年度は「あなたの知らない多肉植物の不思議な世界」を取り入れ全10回で開催しました。6月24日（土）の「大学で学ぶ薬用植物」では、薬学部薬学科の田中宏幸教授が、11月25日（土）の「人間工学による運動講座」では、共通教育センターの宇野直士講師が講師を務め、どちらも約30名の受講生に対して教室や構内薬用植物園で講義を行いました。



(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」



「ほんものの科学体験講座」とは、平成28年度から山陽小野田市教育委員会との連携の下、実施している山陽小野田市内の小・中学生を対象とする出前実験講座です。本学教員による科学実験や講義を通じて、児童・生徒たちに「ほんものの科学」の楽しさを体験してもらうことを狙いとしています。令和5年度は、市内全ての小・中学校17校で42回実施し1174名が受講しました。

(3) サイエンス・カフェ

山陽小野田市立中央図書館を会場に、本学教員がどのような研究をしているのか、大学への理解を市民に深めていただける場として「山陽小野田市立中央図書館サイエンス・カフェ」に講師を派遣しています。2023年度は計137名に受講いただきました。

回次	日付	講師			テーマ
第46回	2023年4月15日	工学部応用化学科	准教授	岩館 寛大	遺伝子とは何か ～遺伝子から分かること、分からないこと、遺伝子と病気の関係～
第47回	2023年6月24日	薬学部薬学科	教授	木村 英雄	硫化水素が脳を保護、記憶を調節、毒ガス？
第48回	2023年10月28日	薬学部薬学科	教授	武田 健	小さな小さな粒子は健康に悪い！どのような悪さをするのか？何故なのか？～長年の研究から得た驚きの結果の紹介
第49回	2023年12月17日	共通教育センター	准教授	木村 良一	認知症は生活習慣病？新薬のヒントはそこに！
第50回	2024年1月21日	本学理事長	理事長	池北 雅彦	山口東京理科大学の“いま”と“みらい”
		入試広報課職員	課長補佐	大森 一世	世界にはばたく山口東京理科大学
第51回	2024年2月25日	薬学部薬学科	准教授	寺尾 哲	薬の効果、副作用と統計との関係

(4) 令和5年度大学開放授業

受講期間：【前期】令和5年4月8日（土）～ 令和5年8月7日（月）

【後期】令和5年9月15日（金）～ 令和6年2月3日（土）

場所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内容：本学の持つ専門知識を広く提供・発信することで地域の学びに役立てていただけるように、正規授業の一部を「大学開放授業」として地域の方々に開放しております。

令和5年度は3名の方が、大学開放授業を受講されました。

受講生からは「若い学生と一緒に大学の授業を聴講することができ、大変刺激を受けました。」「来年度も、ぜひ受講したいです。」等の声が聞かれました。

生涯継続して学び続けることができる機会・社会のニーズに柔軟に対応したりカレント教育を今後一層積極的に実施してまいります。

令和5年度山口東京理科大学 大学開放授業のお知らせ



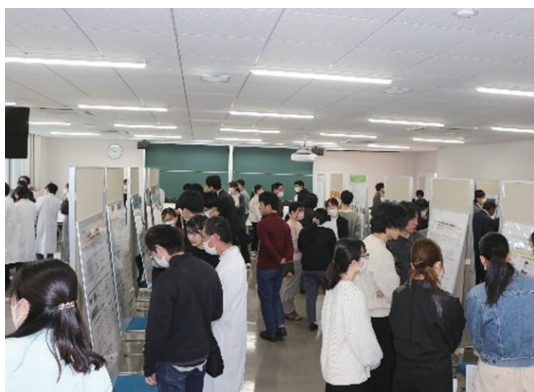
受講生募集

(5) 令和5年度研究成果発表会

開催日：2024年3月13日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：活気のある研究風土の醸成を図ることを目的に「令和5年度研究成果発表会」を開催しました。地域課題解決研究や若手研究者による研究など、様々な分野の教員、学生により計35テーマの発表が行われました。教職員や学生、山陽小野田市職員など計100名以上の参加があり、活発な意見交換をすることができました。



2. 高等学校との連携

(1)「理系教員のためのリカレント・セミナー」を開催

開催日：令和5年8月9日（土）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：コロナ禍で一時中断しておりました本学主催の理系教員のためのリカレント・セミナーを開催しました。理系教員のためのリカレント・セミナーは、県内の高等学校の教員及び山陽小野田市との連携協定に基づき、市内の小学校・中学校・高等学校の教員を対象に開催しています。今回のテーマは、「小学校・中学校・高等学校を通じた探究心を育む理科教育について」です。講演①では、香川大学 教育学部 学校教育教員養成課程 笠 潤平 教授を御招きし、探究的授業の指導等について海外の先進例を含めてご紹介いただきました。講演②(化学講義)では、本学 工学部 橋本 慎二 教授による振動分光法を用いることによってどのような構造情報が得られるかや、大学における教育についてご紹介しました。

また、研究協議では、工学部及び教職科目を担当する共通教育センター講師陣と、校種間の授業内容や探究心を育む理科教育などについて共通理解を図り議論を進めました。

本セミナーは学外・学内合わせて25人の参加があり、小学校から大学を通じた学校間の連携について、体感いただいた教育・研究の違いなどを今後の継続的な理科教育と理系教員の皆様の授業づくりの一助となれば幸いです。



(2) 出前講義

高校生を対象に、本学教員が高校に出向く講義を行いました。
2023年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

日付	曜日	派遣先	所属	役職	担当教員	タイトル
4月15日	土	宇部鴻城高等学校	共通教育センター	准教授	福田 みのり	学びの心理学
6月13日	火	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科	講師	田村 雅史	薬の効き方
6月13日	火	山口県立小野田高等学校	工学部機械工学科	准教授	池田 毅	センサとコントローラ
6月15日	木	山口県立新南陽高等学校	工学部機械工学科	准教授	千葉 良一	身近にある金属製品のつくり方
9月8日	金	慶進高等学校	工学部機械工学科	教授	貴島 孝雄	やさしい自動車工学
9月13日	水	宇部フロンティア大学 付属香川高等学校	工学部機械工学科	教授	吉村 敏彦	泡の力
9月14日	木	山口県立高森高等学校	工学部電気工学科	准教授	穂本 光弘	感染症の数理と進化ゲーム理論
10月18日	水	山口県立下関西高等学校	薬学部薬学科	教授	松永 浩文	右手と左手の関係が薬にもある～薬とキラリティー～
10月23日	月	サビエル高等学校	薬学部薬学科	講師	田村 雅史	薬の効き方
10月24日	火	山口県立下関南高等学校	薬学部薬学科	教授	松永 浩文	薬学とは何か～最近の動向から薬を創る考え方まで
10月25日	水	山口県立宇部中央高等学校	共通教育センター	准教授	浅野 比	地球温暖化について～温暖化の現状と課題～
10月25日	水	山口県立宇部中央高等学校	工学部機械工学科	教授	結城 和久	未来をつくる新しいエネルギーシステム
10月27日	金	山口県立萩高等学校	薬学部薬学科	教授	黒川 陽介	薬剤師って何？～あなたの疑問にこたえます～
10月31日	火	山口県立岩国高等学校	薬学部薬学科	講師	沖田 直之	人の身体と薬の運命
11月8日	水	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科	教授	緒方 浩二	コンピュータを用いた薬物の設計・なぜ薬の設計に
12月8日	金	山口県立柳井高等学校	工学部数理情報科学科	教授	熊澤 努	広くて深い計算の世界
3月15日	金	山口県立下松高等学校	薬学部薬学科	教授	松永 浩文	薬学とは何か～最近の動向から薬を創る考え方まで
3月15日	金	山口県立新南陽高等学校	工学部電気工学科	講師	山本 眞也	センサはどうやって“検出”するのか
3月15日	金	山口県立新南陽高等学校	薬学部薬学科	講師	沖田 直之	人の身体と薬の運命

肩書は当時の役職。

3. 産業界との連携

(1) 山口県GMPカレッジワークショップを開催

開催日：2023年11月29日(水)、12月5日(火)、
2024年1月16日(火)、2月14日(水)・21日(水)、
3月13日(水)～15日(金)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山口県GMPカレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会及び本学の産学公連携による医薬品製造所の人材確保等の支援及びGMP人材育成プログラムの作成・実施を目的とした本学薬学部、工学部の学生等向けの事業です。2023年度は各企業を招いての講演会や、企業見学、工場実習等、ワークショップを6回開催しました。

日 時	概要
2023 年 11 月 29 日	(独) 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) から、 本学 2 年生を対象に GMP の講演
2023 年 12 月 5 日	テルモ山口 (株) から本学 3 年生を対象に GMP の講演
2024 年 1 月 16 日	武田薬品工業 (株) から、全学部全学年を対象 に、山口県薬工連携 GMP 初回：「薬工連携 GMP カレッジキックオフセミナー」として、GMP の 講演
2024 年 2 月 14 日	協和キリン (株) 宇部工場にて、本学 4・5 年 生を対象に、品質管理部、製造現場・機器精度 管理の見学・体験
2024 年 2 月 21 日	田辺三菱製薬工場 (株) 小野田工場にて、本学 4・5 年生を対象に医薬品の製剤・製造から包 装、品質管理までの工程を実習体験
2024 年 3 月 13 日～15 日	インターフェックス大阪 (医薬・化粧品製造等 の最新技術が集う国際展示会) に参加。薬学生 が数多くの製薬企業等の技術・業務を学ぶと ともに将来の職業選択の一助として実施。



(2) 数理情報科学科 トーク・セッション

開催日：2023年6月30日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：2023年4月に新設した工学部数理情報科学科にて、地域企業等のデジタル化支援・共同研究の実施を推進することを目的とした「数理情報科学科 トーク・セッション」を開催しました。

第一部では各教員の専門分野の紹介を行い、第二部では多くの参加者との有意義なコミュニケーションを取ることができました。



(3) 大学見本市2023～イノベーション・ジャパン

開催日：2023年8月24日（木）～ 8月25日（金）

場 所：東京ビッグサイト

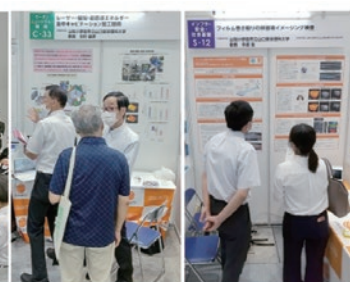
主 催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

共 催：文部科学省

内 容：国内最大級の産学連携マッチングイベント

「大学見本市2023～イノベーション・ジャパン」に出展しました。

タイトル	出展研究者
レーザー・磁場・超音波エネルギー集中 キャビテーション加工技術	工学部機械工学科 教授 吉村 敏彦
上からの光だけをカットするルーバー液晶フィルム	工学部電気工学科 教授 高頭 孝毅
フィルム巻き取りの非破壊イメージング検査	工学部機械工学科 助教 中道 友



(4) 商工会議所会報による研究紹介

本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。2023年度に掲載した内容は次のとおりです。

テーマ	担当教員
山口発！社会に貢献する薬剤師育成のために	薬学部薬学科 講師 廣實 清司
「免疫のブレーキ」を制御して病気を予防しよう！	薬学部薬学科 講師 堀江 一郎
製剤学の強みを活かした新しい薬の開発	薬学部薬学科 准教授 堀口 道子
薬局薬剤師が地域医療に貢献するために	薬学部薬学科 講師 山本 晃之
化学物質の新たな個性を見つける研究をしています	薬学部薬学科 講師 吉見 陽児
人工タンパク質の設計と医療への活用法	薬学部薬学科 教授 宮本 和英
新規小型抗体の分子設計とその応用についての研究	薬学部薬学科 准教授 田所 高志
デジタル技術との掛け算に向けて	工学部数理情報科学科 教授 福井 一彦
移動エージェントに基づいたソフトウェア、 とりわけロボットを制御するソフトウェアの研究	工学部数理情報科学科 教授 神林 靖
自然の知性を活用したソフトウェアの品質保証	工学部数理情報科学科 教授 熊澤 努
プログラムと時間をつなぐ	工学部数理情報科学科 准教授 青谷 知幸
公共データベースを利用した新規治療薬開発の研究	工学部数理情報科学科 准教授 雨宮 崇之

4. 地域団体との連携

(1)「薬剤師向けオンデマンド・web研修講座」を実施

受講期間：令和5年7月14日から令和6年3月31日

形式：オンライン

内容：令和4年度に実施した「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」の動画を活用し、オンデマンドによるweb研修を実施。令和5年度は、市内6名、市外4名計10名の受講者がありました。また、この講座は、山陽小野田薬剤師会・山陽小野田市が推奨する「スマイルエイジング薬局」の必要研修講座の一部となります。



山陽小野田市立山口東京理科大学

薬剤師向けオンデマンド・web 研修講座



受講生募集

受講料無料

受講・視聴期間：令和5年7月14日～令和6年3月31日まで

山陽小野田薬剤師会・山陽小野田市が推奨する「スマイルエイジング薬局」の必要研修講座の一部となります。

山陽小野田市立山口東京理科大学
生涯学習センター

(2) 大学開放デーを開催

開催日：2023年9月24日（日）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：大学教育の現場や科学技術等に触れられる機会を提供し、地域の方に大学を身近に感じてもらうことを目的に「大学開放デー」を開催しました。

各会場では、市民フォーラム・科学作品展示・科学実験体験（高校・企業・大学）や親子ドローン教室・ボッチャ・タンگرامなど様々なイベントが行われました。科学作品展示では、山陽小野田市からの表彰に加え、本学から理事長賞・学長賞の授与もありました。

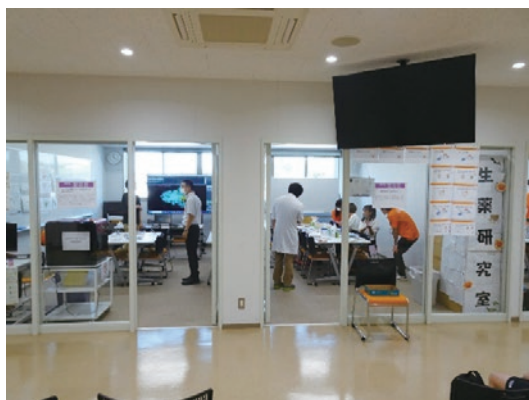
当日は、山陽小野田市内外から約800名の方にご来場いただき、大変盛況なうちに終了しました。



(総合受付)



(ボッチャの様子)



(科学実験コーナー)



(科学実験コーナー：待合スペース)

(3) 特別講演会「薬局・病院に外国人がやってきた!! さて、どうする?!」を開催しました

日 時：令和6年2月3日（土）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：講演1)「やさしい日本語で、やさしい世界」

講師)一般社団法人やさしい日本語普及連絡会代表 理事 吉開 章 氏

講演2)「明日から役立つ服薬指導～翻訳アプリ等のリスク&多言語ツールの活用」

講師)外国人患者対応能力向上委員会 薬剤師/多文化共生マネージャー 池浦 恵 氏

ワークショップ)「3文クッキング」でやさしい日本語にチャレンジ!

講師)一般社団法人やさしい日本語普及連絡会代表理事 吉開 章 氏他

本学において2名の講師をお招きし、外国人患者等への対応能力向上を学ぶ機会として「薬局・病院に外国人がやってきた!! さて、どうする?!」をテーマに特別講演会を開催しました。当日は、薬剤師、行政関係者、日本語学校関係者、大学教職員、大学生など市内外から約30名が聴講されました。

私たちが、何気ない日常生活の場面で「やさしい日本語」を利用し、相手の背景を見て、相手の心情を配慮したコミュニケーションを心がけることで、多様性を包括したやさしい世界の実現に繋がるのだと学ぶことができ、改めて相手の背景を見たコミュニケーションの大切さに気付かされる大変貴重な機会となりました。



写真左から、恵谷生涯学習センター長、池浦氏、吉開氏

(4) 第35回夏休みジュニア科学教室を開催

開催日：2023年8月1日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：夏休みジュニア科学教室※「身近な発光現象を観察しよう！」を開催し、本学薬学部の和田光弘教授、武藤純平准教授、高田 誠助教が講師を務めました。

当日は、参加した山口県内の小学5年生～6年生が、「身近な発光現象を観察しよう！」について学び、実際に水剤・カプセル剤、ぬり薬をデザインして作りました。さらに、薬局で使う薬の袋やお薬手帳を使って、薬剤師の体験をしました。くすりのデザインを実際に経験した参加者からは、「将来、薬剤師になりたい。」、「くすりのデザインの工夫はとても面白い。」などの感想がありました。今回の経験を通じて、科学や薬剤師に興味を持ってくれる児童・生徒が一人でも増えてくれると幸いです。



※このイベントは、やまぐち産業振興財団を中心として、山口県内の大学や高専、企業の研究所などの関係機関・団体が協力し、科学の面白さを子供たちに伝えることを目的に、夏休みに開催されています。

5. 学生による地域貢献

(1) 「フレイル予防」啓発ポスターを制作

本学の学生が、「フレイル予防」に関する知識や普及に対するポスターを作成し啓発活動を実施しました。

入賞者には、山陽小野田薬剤師会の上林雅樹会長から記念品が授与されるとともに、作成された作品は、市内の薬局に順次掲示されました。

山陽小野田薬剤師会と本学は、連携協定を締結しており、地域の健康、医療、福祉の発展に協力して取り組んでおり、今回のポスター制作は、山陽小野田市スマイルエイジング強化月間の一環として実施しました。



【各部門 入賞作品】

「優秀賞」2作品、「あと一步会長賞」2作品、計4作品が入賞

(2) 地域ボランティア活性化班（薬学部学生会）による「おくすり教室」

開催日：2023年10月7日

場 所：山陽小野田市立厚狭図書館

内 容：薬学部の地域ボランティア活性化班（薬学部学生会）学生10名が講師を務め、厚狭図書館で市内外の小学1年生から6年生の14名におくすり教室「ふしぎな薬の世界をのぞいてみよう。山口東京理科大学学生による ～子ども向けおくすり教室～」を実施しました。児童を3つのブースに分け、くすりの種類や正しい服用方法、くすりの原料となる植物などについて、クイズや実験を通してくすりや薬学を紹介しました。



6. 地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 地域課題解決研究事業

本学の研究活動の振興を図るとともに、地（知）の拠点として、地域産業の振興や地域課題の解決に貢献することを目的とする事業です。市民及び市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体、企業等が抱える地域課題を解決し、その研究成果を地域に還元します。

(教) 本学教員等が、解決すべき地域課題として取り組む研究と(公) 市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体から提案された地域課題に、本学教員等が取り組む研究があります。

令和5年度は、9件(教7件、公2件)の応募があり、以下の4件(教2件、公2件)が採択され地域課題に取り組みました。

【教員等が提案した課題への取り組み】

管理No.	研究課題	取組団体組織名／代表者	提案者(本学教員等)	所属・職名	共同研究者
教1	やまぐち情報スーパーネットワークを用いた研究加速化実証研究	(公財)やまぐち産業振興財団 副理事長・福田 浩治	堀口 道子	薬学部 薬学科 講師	やまぐち産業振興財団・副理事長 福田 浩治、 山口大学 医学部・教授 水上 洋一、 山口東京理科大学・理事長特別顧問 梶井 浩志、 学術情報システム課 課長 八鍬 忠雄
教6	山陽小野田市の農業コストを50%削減可能な夏冬ハイブリッド農業SUNシステムの実証試験	中矢農園 代表取締役 中矢 秀	結城 和久	工学部 機械工学科 教授	工学部 機械工学科 助教 結城 光平

【公共団体等から提案された、課題への取り組み】

管理No.	研究課題	団体組織名／代表者	取組申請者	所属・職名	共同研究者
公1	山陽小野田市における出生数低下の要因分析について	山陽小野田市企画部企画課 課長 工藤 歩	高田 寛之	工学部 数理情報科学科 准教授	該当なし
公2	若者の子宮頸がん検診受診率向上に向けて	山陽小野田市福祉部健康増進課 健康増進課長 松林 康則	中村 洋	共通教育センター 准教授	共通教育センター 准教授 福田 みのり

(2) 地域卒業研究

学部の卒業研究において地域に関連する研究テーマ（１）地域活性化（山陽小野田市及び山口県）に繋がる研究テーマ（２）地方創生（山陽小野田市及び山口県）に繋がる研究テーマに取り組んでいる卒業研究指導教員に対し、「地域卒業研究費」として実験実習費の加算配分を行い山陽小野田市や山口県等特定の地域に着目した研究テーマに支援を行っています。令和５年度は申請のあった15件全ての研究テーマが採択されました。

管理 No.	研究テーマ	教員の所属／ 職名／氏名	申請学生
実 01	小野茶抽出物が有する健康増進作用の科学的根拠～抗糖尿病効果の探索～	薬学部 薬学科 講師 沖田 直之	薬学部 薬学科
実 02	次世代バイオ医薬品開発を目指す人工小型抗体の高機能化	薬学部 薬学科 講師 田所 高志	薬学部 薬学科
実 03	徳地和紙の白金コロイドとの融合によるプラチナプリント作成	工学部 応用化学科 教授 白石 幸英	工学部 応用化学科
実 04	山陽小野田市における慢性腎臓病（CKD）による透析患者の動向調査とCKDに対する新しい薬物デリバリーシステムの開発	薬学部 薬学科 講師 堀口 道子	薬学部 薬学科
実 05	山陽小野田市・宇部市の地域特産海産物である「海苔」のアンチエイジング効果の検証による付加価値の創出	薬学部 薬学科 教授 井上 幸江	薬学部 薬学科
実 06	山口県産ハッサク（Citrus hassaku）からの新規抗認知症作用成分の探索	薬学部 薬学科 教授 田中 宏幸	薬学部 薬学科
実 07	人工ユビキチンリガーゼを活用するイムノクロマトグラフィーによるユビキチン結合酵素の検出	薬学部 薬学科 教授 宮本 和英	薬学部 薬学科
実 08	手指衛生に及ぼす流水の流量の影響	薬学部 薬学科 教授 尾家 重治	薬学部 薬学科
実 09	医薬品自発報告データベース解析結果に基づくアンケート調査と薬学生主体の産官学連携の推進（モデル地域：山陽小野田市）	薬学部 薬学科 教授 恵谷 誠司	薬学部 薬学科
実 10	山陽小野田市およびその周辺地域に暮らす外国人への災害啓発ならびに地域医療提供施設との関係促進を目的としたツール作成	薬学部 薬学科 教授 恵谷 誠司	薬学部 薬学科
実 11	高齢者に多い変形性膝関節症の現状と治療について	薬学部 薬学科 教授 恵谷 誠司	薬学部 薬学科
実 12	地域製薬企業との共同研究に向けた既存薬の新規薬効開発に関する研究	薬学部 薬学科 准教授 相良 英憲	薬学部 薬学科
実 13	山陽小野田市に飛来する浮遊粒子状物質の経時的な性状の変化と健康影響	薬学部 薬学科 准教授 立花 研	薬学部 薬学科
実 14	未利用熱回収に向けた磁性元素置換クラスレート系	工学部 電気工学科 教授 阿武 宏明	工学部 電気工学科
実 15	心不全手帳の利用と薬局薬剤師の関わりと心不全憎悪に対する再入院の予防	薬学部 薬学科 准教授 有海 秀人	薬学部 薬学科

(15/15件)

(3) リーダーシップ論

リーダーシップ論は様々な分野のリーダーたちの経験を学び、大学生が自分自身のリーダーシップのスタイルを考える授業です。2023年度は、山陽小野田市の藤田剛二市長や本学の貴島孝雄教授を始め、地域の企業経営者や工場長、本学の教員など計13名のリーダーたちから、リーダーシップに関する経験を学びました。



山陽小野田市役所 藤田剛二市長による講義



本学 貴島孝雄教授による講義

(4) 地域技術学

地域技術学は山陽小野田市内の企業が抱える課題について、学生が現地で現物を見ながら現実を学びつつ、ブレインストーミングやKJ法、SWOT分析などのツールを駆使して、課題の解決方法を検討し、発表する授業です。社会人基礎力を習得し、就職に強い人材を育成することを目的としています。2023年度は大阪新薬株式会社、共英製鋼株式会社山口事業所、中国電力株式会社新小野田発電所、長州産業株式会社、都市産業株式会社、株式会社NITTAN山陽工場、BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社小野田事業所、株式会社明防にご協力を頂きました。山口県産業技術センターの元理事長である山田隆裕氏から地域産業の抱える課題や解決方法に関する講話を頂きました。さらに学生の最終発表に対して、山陽小野田市の藤田剛二市長や山田隆裕氏、協力頂いた企業の皆様から講評を頂きました。



中国電力株式会社新小野田発電所からの学生への課題説明

(5) 地域産業論

地域産業論は持続可能な社会づくりのための4本柱である環境・社会・経済・制度の側面から山陽小野田市、山口県における産業と地域の発展のあり方を学ぶ授業です。2023年度は山陽小野田市の古川博三副市長をはじめとして、関連する専門知識を有する9名の外部講師と企業勤務経験のある本学の教授による講義が行われました。



山陽小野田市役所の古川博三副市長による講義

(6) 地域社会学

地域社会学は、学生が山陽小野田市内でフィールドワークを行い（地域に出て調査を行い）、集めたデータを統計的に分析し、地域課題の解決方法を考える授業です。2023年度には川上地域や子宮頸がん検診の受診率向上をテーマに学生がフィールドワークを行いました。分析結果を踏まえ、課題の解決方法をフィールドワーク先の方々に提案しました。



市役所職員による川上地域や課題の紹介

(7) 市内県内企業見学

(機械工学科)

開催日：2024年1月12日（金）

場 所：長州産業株式会社/株式会社長府製作所

内 容：2年生72名が機械工学科における教育の一環として長州産業株式会社と株式会社長府製作の2社を訪問しました。各社とも事業概要の紹介の後、長州産業株式会社では太陽光パネルの生産ライン、また株式会社長府製作では給湯器や温水器等の製造現場を見学しました。モノづくりの現場を本格的に訪問するのが初めてということもあり、積極的に質問をする学生が多く、機械工学科での専門的な学びがモノづくりへ直結することを理解できたようでした。今回の見学は「山口県内のモノづくり企業を知る」ことが目的ですが、山口県内にグローバルで活躍される企業が多くあることを知り、更に、今後のインターンシップや就職について考える良いきっかけとなりました。



(電気工学科)

開催日：2023年7月14日（金）、7月21日（金）

場 所：中国電力株式会社

内 容：2年生62名が電気工学実験の一環のプログラムとして中国電力株式会社を訪問しました。

電気工学科2年の学生62名が中国電力新小野田発電所の見学を行いました。コロナ感染症防止の観点から2グループに分れて、1グループ1日(13:30～15:00)ずつ2日間に渡って行われました。この見学は電気工学実験1において発電施設の実際の設備を見ながらその構造・原理・管理・運用を学ぶためのもので、中国電力新小野田発電所様の協力で毎年行っており、コロナ感染症が流行するなかでも途絶えることなく行われました。ここ数年は、コロナ感染症防止の観点から発電施設建屋内の見学は出来ませんでしたが今年度は建屋内の見学ができ非常に貴重な学習の機会が得られました。①所員の方達による実際の設備の前での詳細な説明②貯蔵場の見学による1週間の発電に

用いられる石炭使用量③発電所に於ける廃棄物の再利用の努力など現場でしかできない学びが多く得られました。この見学は特に、電磁気学1, 2・電気回路1～4・発変電工学と関連しています。

(応用化学科)

開催日：2023年10月31日（火）

場 所：テクノUMG株式会社/ UBE株式会社

内 容：2年生76名が有機化学実験の一環のプログラムとしてテクノUMG株式会社とUBE株式会社の2社を訪問しました。

テクノUMG株式会社では、事業概要の説明に続いて、主力製品であるABS樹脂製品の身近な利用例や摩擦に強い特殊ABS材料、着色材料についてサンプルを触らせてもらいながら説明を聞きました。工場内の見学では、船からの原料陸揚げ設備、ABS原料の保管設備、ABS樹脂製品の生産設備、製品出荷設備、環境対策のための排気浄化設備などについて、説明を聞きながら見学しました。(約1.5時間)

UBE株式会社では、バスに乗りながらアンモニア等の製品貯蔵出荷設備、医薬品原料工場、石炭発電所、カプロラクタム工場などの外観を見学し、企業担当者の説明を聞きました。続いて社屋に入って会社紹介動画を見た後に、展示室i-Plazaに移動して企業の歴史や石炭原料からの多様な製品群への誘導、特徴的な製品についての説明を聞きました。説明後に展示室内の製品に関する説明を聞きながら見学しました。(約1.5時間)



(8) 薬学教育のための市民模擬患者

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：薬学生のコミュニケーション教育のため、一定のトレーニングの後、実際の患者さんのように症状や会話を表現できる患者役を演じる人のことを模擬患者（SP：通称エスピー）といいます。薬学生の実習や実技試験では、患者役を演じていただきます。課題で準備されたシナリオを覚え、実際の患者になったつもりで、症状や副作用のことを話したり、薬の説明を受けたりします。本学では、未来の薬剤師を市民の皆様からの協力をいただきながら教育しています。



(9) 行政薬剤師による講義

開催日：2023年5月29日（月）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：早期体験実習の一環として、行政薬剤師（薬学人）が活躍する医療、保健、衛生、行政の現場に関する講義を聴講し、質疑応答を行いました。

(10) 市内企業インターンシップ

山陽小野田市内に立地する企業において、学生のキャリア教育や職業体験を支援するためインターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2023年度は市内企業11社に対して19人がインターンシップに参加しました。

〈市内企業インターンシップ先〉

宇部フィルム株式会社/株式会社オーネックス山口工場

光洋技研株式会社 山口工場/山陽小野田市役所/山陽小野田市立厚狭図書館

太平洋マテリアル株式会社 小野田工場/中国電力ネットワーク株式会社

長州産業株式会社/日産化学株式会社 小野田工場/株式会社花の海

富士商グループホールディングス株式会社

(11) 県内企業インターンシップ

山口県内に立地する企業を対象に、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、インターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2023年度は県内企業45社に対して77人がインターンシップに参加しました。

(12) 学術と地域文化

薬学部において、地域を理解し、物事を多角的にみる能力を養うことを目的に、外部講師を招聘する学術と地域文化を開講し、あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学びました。2023年度の講師は次のとおりです。

日付	講師氏名	所属等
4月12日	藤田 剛二	山陽小野田市長
4月19日	調 恒明	山口県環境保健センター 所長
4月26日	吉田 力久	山口県薬剤師会 会長
5月10日	小野田 淳人	山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部 助教
5月17日	長岡 佐都子	山陽小野田市福祉部高齢福祉課 課長
5月24日	久保 久美子	全日本かるた協会 初代永世クイーン八段
5月31日	玉村 信一	萩焼陶芸家
6月7日	中島 伸樹	前山口県庁農林水産部職員・獣医職
6月14日	西川 慎	ガラス工芸作家 株式会社ニシカワグラスアンドアート 代表取締役
6月21日	國澤 純	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 センター長
6月28日	尾山 貴子	山陽小野田市福祉部 次長
7月5日	磯部 総一郎	日本 OTC 医薬品協会 理事長
7月12日	嶋田 紀和	自然観察指導員
7月19日	片山 宏昭	NHK 山口放送 ディレクター
7月26日	豊島 聡	日本薬剤師研修センター理事長
9月19日	白澤 文吾	山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座教授
9月26日	浅井 義之	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター教授
10月3日	中津井 雅彦	山口大学大学院医学系研究科・医学部付属病院 AI システム医学・医療研究教育センター教授
10月10日	中屋 豊	東都春日部病院 名誉院長、徳島大学 名誉教授
10月17日	阿賀 康弘	UBE（株）医薬事業部 医薬研究所 創薬薬理 G 兼探索薬物動態スクリーニング G グループリーダー
10月31日	篠田 晃	山口大学大学院医学系研究科神経解剖学講座教授
11月7日	小林 晃子	山口県薬剤師会学校薬剤師部会理事
11月14日	李 桃生	長崎大学原爆後障害医療研究所幹細胞生物学研究分野教授
11月21日	半矢 幸子	山陽小野田市食生活改善推進協議会会長
11月28日	末廣 寛	山口大学大学院医学系研究科臨床検査・腫瘍学講座准教授
12月5日	町田 佳男	田辺三菱製薬工場（株） 小野田工場長
12月12日	進藤 英朗	下関市立しものせき水族館 海響館 動物健康管理室 課長
12月19日	池辺 祐介	秋芳台自然動物公園サファリランド 園長
1月16日	後藤 健太	武田薬品工業（株） 光工場 光製薬品質部 部長
1月23日	小林 誠	山口コ・メディカル学院 学院長

(13) 大学リーグやまぐち

山口県内の高等教育機関の連携を深め、また、行政、産業界等と広範なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与することを目的とした組織です。

本学も、全体会議や県内就職部会、地域貢献部会といった会議に定期的に参加しています。

7. 地方公共団体との連携

(1) 山陽小野田市長による特別講義

開催日：2023年4月12日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の専門家の話を聞き、学び、考えることで地域の歴史・文化の理解を深め、国際性（異文化・国際問題の理解）を涵養し、人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力を養うことを目的とした講義「学術と地域文化1」にてご講演いただきました。今回の講義では、『リーダーシップ論』をテーマとし、山陽小野田市政の紹介や具体例を用いたリーダーとしての取り組みや志についてご講演いただきました。



藤田剛二市長による学術と地域文化1での講義

開催日：2023年10月16日（月）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の様々なリーダーたちから事例を学ぶことを通じて、学生が自分自身のリーダーシップのスタイルへの考察を深める講義「リーダーシップ論」にてご講演いただきました。『リーダーシップに纏わる人材育成』をテーマとし、コミュニケーションの取り方、10項目にわたる仕事の流儀、山陽小野田市におけるスマイルシティや協創によるまちづくりについて説明がありました。



藤田剛二市長によるリーダーシップ論での講義

(2) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。市立図書館カウンターで直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却、または、市立図書館で予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることもできます。2023年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は市立図書館カウンターを通じ市民へ本学の図書を貸出したのは24冊、本学図書館カウンターを通じ市立図書館の図書を貸出したのは33冊です。

(3) 市立中央図書館「図書館フェスティバル」

開催日：2023年11月26日

場 所：山陽小野田市立中央図書館

内 容：山陽小野田市立中央図書館において開催された第10回（通算第15回）図書館フェスティバルにおいて、本学学生が数多く参加しました。学生団体からは、フォーミュラチームによるフォーミュラカーの展示説明・試乗・エンジン始動、フィルハーモニー交響楽団による市民ときめきコンサートの出演、山理科LABOによる科学実験「スライム&人工イクラづくり」などを行いました。



(4) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に、薬学部附属の薬用植物園の整備をしています。江汐公園は約138万㎡という広大な公園で、江汐湖を中心とする美しい自然環境に恵まれ、四季折々の花が咲き誇る山陽小野田市の観光名所として市民に親しまれています。薬学部附属の江汐公園薬用植物園は、これまで学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用してきました。そして満6年を迎えた2023年を薬用植物園の新たな一步の始まりとして、四季折々の花々が咲き市民に親しまれる薬用植物園に生まれ変わり、市民の生涯学習の場としての利用のほか、秋には大学を含めた実行委員会によって「えじお みんなの薬草園」というイベントが開催され、市民に喜びと癒しをもたらす場としても利用しました。



(5) 住まいる奨励金

山陽小野田市は、市内に住民票がある新入学生を対象に、3万円を上限に市内の協力店約300店舗で利用できる経済的助成制度として「住まいる奨励金」を創設されました。本学は、学生に周知を行うとともに奨励金の申請受付及び学生への給付を行いました。



山陽小野田市「住まいる奨励金」

(6) スマイルチケットを本学学生全員に配布

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、市民生活を支援するとともに、地域における消費を喚起するため、市民の皆さんが市内のお店で利用できる商品券（スマイルチケット）を配布しました。

本学の学生には、住民票がない学生でも全員が配布対象としていただきました。



(7) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における2023年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山陽小野田市 都市計画審議会	都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。	望月 正隆 学長
山陽小野田市 図書館協議会	図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べます。	共通教育センター 堤 千佳子 教授
		薬学部薬学科 細井 徹 教授
山陽小野田市 地域公共交通会議	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の様態及び運賃・料金等に関する事項など公共交通網形成計画について協議します。	工学部電気工学科 井上 啓 教授
山陽小野田市 空家等対策協議会	空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空家対策計画策定の協議を行います。	共通教育センター 金田 和博 教授
		工学部応用化学科 井口 眞 教授
山陽小野田市 男女共同参画審議会	男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定及び変更に関するもののほか、男女共同参画の推進に関する施策の基本的及び重要事項について審査審議します。	共通教育センター 堤 千佳子 教授
山陽小野田市観光関係 団体ネットワーク会議	山陽小野田市の観光関係団体や事業所のネットワークを構築します。	工学部電気工学科 井上 啓 教授
山陽小野田市高齢者 保健福祉推進会議	高齢者の保健福祉環境づくりの総合的、かつ、計画的な推進に関する事項について調査し、審議します。	薬学部薬学科 坂井 久美子 講師
山陽小野田市 かるた振興委員会	山陽小野田市の特色ある文化のひとつである「小倉百人一首かるた」の普及振興に積極的に取組、芸術文化によるまちづくりを推進します。	薬学部薬学科 坂井 久美子 講師
山陽小野田市 文化財審議会	国・県・市が指定をしている文化財の保護や、収蔵に関すること、また今後の活用に関するものを審議します。	共通教育センター 内田 陽三 教授
		共通教育センター 土井 浩 教授
山陽小野田市 健康づくり推進協議会	市民の実情に応じた健康づくり施策を推進します。	薬学部薬学科 恵谷 誠司 教授
山陽小野田市 教育に関する事務の管理 及び執行の状況の点検 及び評価	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します	共通教育センター 金田 和博 教授
		共通教育センター 福田 みのり 准教授
山陽小野田市 下水道事業検討委員会	污水处理施設整備構想及び公共下水道全体計画の見直しのために総合的な視点から検討を行います。	工学部応用化学科 北條 信 教授
山陽小野田市 文化によるまちづくり 推進委員会	山陽小野田市における文化芸術の振興及び文化によるまちづくりの推進に関し、広く市民から意見を聴くために設置されています。	薬学部薬学科 坂井 久美子 講師
山陽小野田市 子ども読書活動推進計 画検討委員会	山陽小野田市執行機関の附属機関に関する条例に基づき、山陽小野田市子ども読書活動推進計画について検討します。	薬学部薬学科 細井 徹 教授
山陽小野田市 文化会館運営委員会	文化会館の運営全般に関する意見交換を行います。	共通教育センター 縄田 也千 教授

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山陽小野田市 中学生の文化・スポーツ活動体制整備協議会	山陽小野田市における中学生の新たな文化・スポーツ活動の在り方及び体制を整備するために設置された協議会です。	共通教育センター 宇野 直士 講師
山陽小野田市 指定管理者選定委員会	山陽小野田市の指定管理者選定に関することを審議します。	共通教育センター 宇野 直士 講師
山口県立豊浦高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部応用化学科 太田 雄大 教授
山口県立下関中等教育 学校学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部機械工学科 吉村 敏彦 教授
山口県立小野田高等学校 学校学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部応用化学科 白石 幸英 教授
山口県立小野田工業高 等学校学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山陽小野田市本山小学 校学校運営協議会	学校づくり、地域づくりの両視点から地域ぐるみで子どもたちの学びを支える取組を推進しています。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山口県立宇部高等学校 スーパーサイエンスハイ スクール運営指導委員会	スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。	大学院工学研究科 石川 敏弘 教授
山口県立下関西高等学校 スーパーサイエンスハイ スクール運営指導委員会	スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。	薬学部薬学科 松永 浩文 教授
宇部市学校給食センター	学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。	薬学部薬学科 尾家 重治 教授
山口県やまぐち産業 イノベーション促進補 助金審査委員会	山口県産業イノベーション促進補助金採択事業の選定、事業評価を行います。	大学院工学研究科 石川 敏弘 教授
山口県環境審議会	環境基本法第43条及び水質汚濁防止法第21条の規定に基づき、県内の環境安全にかんする基本的事項及び水質の汚濁防止に関する重要事項を調査審議します。	薬学部薬学科 立花 研 准教授
山口県ジェネリック医薬 品安心使用促進協議会	ジェネリック医薬品に係る普及啓発・情報提供、使用状況調査、使用促進を図るための調査研究に関することなどについて協議・審議します。	薬学部薬学科 黒川 陽介 教授
山口県薬事審議会	地方での薬事に関する事項を審議します。	薬学部薬学科 井上 幸江 教授
山口県教員養成等検討 協議会	山口県における次代の教育を担う人材の養成・採用や、学校の中核となって活躍する人材の育成に向けて、教育委員会・学校と大学等が連携した取組を行っています。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山口県献血推進協議会	山口県における献血思想の普及に向けた献血推進事業について協議します。	薬学部薬学科 恵谷 誠司 教授
やまぐち広域スポーツ 企画運営委員会	山口県の総合型地域スポーツクラブの推進状況の確認及び今後の方針について協議しています。	共通教育センター 宇野 直士 講師

8. 消防署との連携

(1) 学生消防団員

高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、消防団員の任用資格を市内に通学する学生も対象とすることに変更し、本学で学生消防団員を募り、2023年度は合計16名の学生が参加しました。



(2) 防災訓練

開催日：2023年10月5日（木）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：宇部・山陽小野田消防局、富士産業株式会社の協力のもと、防災訓練を実施しました。第1部では、授業中に地震が発生した後、5号館で火災が発生したことを想定して、学生の避難誘導をはじめ、安否確認、発生した火災にかかる消火方法の確認及び防火区画の形成、救助活動、トランシーバーを用いた情報共有などを実施しました。第2部では、小野田消防署の指導による発火物に対する消火器を用いた消火訓練、消火栓の使用方法を確認したほか、火災時の煙体験を実施しました。



第1部：地震発生時訓練の様子



第1部：救助活動の様子



第2部：消火訓練の様子



第2部：煙体験の様子

(3) 普通救命講習

2023年は5回、普通救命講習（Ⅰ）を宇部・山陽小野田消防局小野田消防署から講義を受け、合計78名の教職員が受講しました。

心肺蘇生法、AEDの使用方法、異物除去及び止血法の方法を学ぶとともに、講習会を通して、応急手当の知識と技術を身につけました。



9. その他の取り組み

(1) 船鉄バスのフリーパスについて

本学と船木鉄道株式会社は、公共交通フリーパスに関する協定を締結しました。

本協定により、2020年4月から、本学に通う学生は学生証を提示することで、船木鉄道株式会社（船鉄バス）が運行する路線バスの全路線を無料で利用できます。

(2) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。

2023年度の企業等の利用状況は次のとおりです。

利用企業数	利用回数
6 社	16回

10. 地域からの入学

(1) 地域推薦

入学者に占める県内出身者の比率を高めるために、学校推薦型選抜では県内の高校等出身者を対象とする「一般推薦【県内枠】」及び「指定校推薦」を採用しており、工学部では26.3%、薬学部では25.0%を県内からの募集人員に設定しています。

2024年度の入学者選抜区分と募集人員は、以下の表のとおりです。

(単位：人)

学部	入学定員	入学者選抜区分と募集人員				
		県内枠	指定校	計	割合	一般選抜 その他
工学部	300	29	50	79	26.3%	221
薬学部	120	20	10	30	25.0%	90
計	420	49	60	109	26.0%	311

(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）

2024年度の入学者451人のうち、県内出身者は130人と、入学者全体の29%となりました。

(単位：人)

学部	入学者数	山口県内出身者		山陽小野田市出身者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	319	92	28.8%	18	5.6%
薬学部	132	38	28.8%	3	2.3%
計	451	130	28.8%	21	4.7%

11. 地域への人材輩出

大学院進学者を除く2023年度卒業生数は、工学部179名、薬学部102名、工学研究科（修士課程）15名、工学研究科（博士後期課程）2名で、このうち県内への就職者は60名（就職者の約25.5%）となっています。

主な就職先は、工学部は製造業、建設業が多く、薬学部は卸売業・小売業、医療・福祉が多く、工学研究科は製造業となっています。

（単位：人）

学部等	就職者数	山口県内就職者数		山陽小野田市内就職者数	
		人数	割合	人数	割合
工学部	127	37	29.1%	8	6.3%
薬学部	92	18	19.6%	0	0.0%
工学研究科 （修士課程）	14	3	21.4%	0	0.0%
工学研究科 （博士後期課程）	2	2	100.0%	0	0.0%
計	235	60	25.5%	8	3.4%

※山口県内企業は県内に本社または事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社または事業所がある企業を含む

12. 地域への経済波及効果

本学が立地することにより、教育研究活動や施設整備による地域への経済活動が行われるとともに、学生や教職員が大学近隣に居住することによる消費活動が生み出されています。

これら様々な活動が行われることにより、市内・県内への経済波及効果が創出されています。

参考：本学が立地することによる地域への経済波及効果（2023年度）

経済波及効果	山口県への経済波及効果	山陽小野田市への経済波及効果
直接効果	32.3 億円	19.3 億円
生産誘発額	26.6 億円	15.9 億円
付加価値誘発額	16.6 億円	9.9 億円
総合効果	75.5 億円	45.1 億円

13. 市内人口の約32人に1人が理科大生

2024年5月1日現在、山陽小野田市の人口59,311人に対し、本学の学生数は1,840人（学部1,774人、大学院66人）となっており、市内人口の約32人に1人が理科大生となります。

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL: 0836-88-3500 (代表)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University